

平成27年6月24日

東急建設株主総会での質問と回答

ホタルのふるさと瀬上沢基金
角田東一

横浜市で計画している上郷開発について、以下3つの質問をしますのでお答えください。

- 1 國土交通省は第5次國土利用計画で、「環境問題や人口減に対応して新たな宅地造成を抑制する」という方針を打ち出しました。東急建設は、横浜市の栄区で山林や田畠をつぶす大規模な宅地開発を計画しています。国交省方針に逆らっての開発は、東急グループの評判を落とします。

上郷開発は、国交省方針に従って中止すべきではないか？

回答：緑地を7割残す環境に配慮した計画だ。横浜市からは計画を認められた。
長い歴史の中で、地権者や横浜市のまちづくり計画実現の為に開発を行う。開発を止めれば、かえって緑が無くなる。

- 2 上郷開発は、32haのうち約半分は公園整備等をして市へ寄付、道路を4車線整備、宅地化する約7haの内5haを地権者還元、東急建設の土地はわずか2haくらいしかない。この事業は赤字事業ではないか？ 赤字なら止めるべきだ。

回答：事業の赤字は長期的に償却していく。企業の社会的責任として、街の活性化、高齢社会への対応を図る。中止すると、赤字を上回る地主への賠償金が予想され、土地は荒れ放題になり生かされない土地が残るだけ。舞上線の4車線化は行政と相談しながら決めていく。

- 3 開発区域内の山林に1200年前の製鉄遺跡があり、現状保存を望む声が多い。ナショナル・トラスト団体から取得要請があれば、話し合いに応じるか？

回答：製鉄遺跡は市と相談しながら進めていく。

所感

東急建設は上郷開発提案書の中で、緑地を7割担保するから3割は宅地化を認めよ、開発は長年の地権者の願いだから開発を認めよ、却下すれば墓地や資材置き場にして緑地を無くすぞ、と脅しています。

結局横浜市は、この脅しに屈して容認してしまった。